

授業づくりチャート

令和 年 月

学年 (年) 教科 () 領域 () 授業日 (令和 年 月 日)

単元名 () =ゴールイメージ

1 単元のゴールイメージ

児童が単元の最後に 場= で 誰= に対して 何= をする。(ゴール)

2 関わり合いのポイント

ゴールに向けて 誰= と 目標= ために ポイント= について関わり合う。

※ポイント…各教科の基礎的な知識や技法・「考えるための技法」(右項の7)

3 単元の流れ 学習を進めていく道筋とその手だて

時	学習活動	予想される児童の活動	教師の役割・手だて
1	把握		
2	活動 ★児童に委ねるところ		
3	ゴール		

4 本時の手だて 考えをもたせ、関わり合いの中で気付かせ、具体的に表現させるための工夫

- 関わり合い
- 意欲を高める授業づくり
- 考えの可視化
- 教師の役割
- ツール

5 教科のねらい

を達成する。

6 研究構想図



7 「考えるための技法」とツール例

項目	内容	ツール例
1 順序付ける	複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。	ステップチャート
2 比較する	複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。	ベン図
3 分類する	複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。	マトリックス
4 関連付ける	複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。 ある対象に関係するものを見つけて増やしていく。	イメージマップ
5 多面的に見る 多角的に見る	対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。	Xチャート くまでチャート
6 理由付ける (原因や根拠を見付ける)	対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。	クラゲチャート
7 見通す (結果を予想する)	見通しを立てる。物事の結果を予想する。	キャンディーチャート
8 具体化する (個別化する、分解する)	対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。	フィッシュボーン図 クラゲチャート
9 抽象化する (一般化する、統合する)	対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。	
10 構造化する	考えを構造的(網構造・層構造など)に整理する。	